

実施機関：South Eastern and Eastern Europe Clearinghouse for the Control of Small Arms and Light Weapons (SEESAC)

報告者：山田 悠紀子（博士後期課程 2 年）

インターンシップ体験記

私は 2011 年 2 月からセルビアにある South Eastern and Eastern Europe Clearinghouse for the Control of Small Arms and Light Weapons（以下 SEESAC）にてインターンシップを行っています。当初は 2011 年 7 月までの 6 ヶ月間の予定でしたが、10 月末まで延長させてもらい、現在もインターンシップ中です。

1. 志望動機

このインターンシップに応募した理由は主に二つあります。一つは自分の研究テーマとの関連性、二つ目はキャリアステップとしての重要性です。

私は現在、小型武器の移転管理を博士論文の研究テーマとしています。小型武器に関する問題が議論され始めたのは 15 年ほど前と歴史が浅く、研究資料も理論的研究もまだ十分でない状況です。そんな中、SEESAC は 2002 年から旧ユーゴ諸国を中心に小型武器の拡散に伴う様々な問題に取り組んでいるプロジェクトです。ここでのインターンシップを通じて、現場において小型武器の問題がいかに認識され、国際機関がそれらの問題にどのように取り組んでいるのかを知ることは私の研究にとって非常に有益であると思いました。

また、私は修士課程に入学したときから国際公務員になることを志望しており、その上でインターンシップというのはキャリアステップとして非常に重要です。現在国際機関で働く職員の方々の多くはインターンシップを経験しており、その経験を買われて国際機関でのポストを獲得された方も少なくありません。インターンシップのメリットは、インターンシップ中に実際に国際機関で働く方々が日々どのような仕事をしているのかを間近で見ることができ、さらには自分もその一部を体験できることです。これにより実務において必要なスキルは何であるかを学ぶことができます。こうした理由から、私にとってインターンシップ経験というのはとても大切だと思いました。

2. 仕事内容

SEESAC にてインターンシップを開始して以来、主に以下のような仕事をさせていただいています。

1. リサーチ業務

旧ユーゴ諸国の国内法の比較分析、旧ユーゴ諸国から武器を輸入した国々の国内人権状況のリサーチ、ならびにこれまで行われてきた国際支援の有効性に関するリサーチを行いました。これらは私が国際法を専門にしていることをふまえて与えられた課題であり、国際法の知識を活用した法的な視点からの分析を求められる課題でした。

実施機関：South Eastern and Eastern Europe Clearinghouse for the Control of Small Arms and Light Weapons (SEESAC)

報告者：山田 悠紀子（博士後期課程 2 年）

2. イベント準備

SEESAC は様々なセミナーやワークショップ、地域会議を主催しています。そのためインターンである私もそれらのイベントの準備に携わらせていただきました。私の仕事は事務作業が主で、参加者リストの作成や参加者のネームプレート作成、当日の会場設営、そして会議の議事録作成などを行いました。

3. ウェブサイト改訂作業

SEESAC のウェブサイトには様々なイベントの情報をはじめ、出版物の情報や旧ユーゴ諸国の武器輸出に関連する法律など多岐にわたる情報が掲載されています。これらの情報は随時アップデートする必要があり、私はこの作業を手伝わせていただいています。具体的には、掲載するニュース記事の原案作成や小型武器に関連するニュース記事の切り抜き作業、ウェブサイトに掲載すべき国内法の改正や国際文書に関する情報収集などです。

4. 出張&プレゼンテーション

SEESAC が様々な地域会議やセミナーに参加し、そこで活動状況や成果についてプレゼンテーションを行うことがしばしばあります。私はインターンではありますが、上司はじめ project officer の方々が全員他の会議や出張で留守だという事情もあり、SEESAC を代表してクロアチアのザグレブで行われた **Armed Violence Reduction & Prevention** に関するセミナーに行き、SEESAC の活動を紹介するプレゼンテーションをしました。インターンがこうした仕事をするのは本当にまれだと思いますが、私にとってはじめての経験でいろいろと勉強になりました。



筆者が報告中（奥から二人目が筆者）です。パワーポイントを使ってプレゼンテーションをしています。

3. 感想

その他細々した仕事もいくつかありましたが、大きく分けるとこの 4 つの仕事をしています。すべての仕事がとてもやりがいのあるもので、とても楽しく仕事ができています。これまでの国連軍縮研究所（UNIDIR、スイス・ジュネーブ）や化学兵器禁止機関（OPCW、オランダ・ハーグ）での経験を活かしつつ、新しいことにもチャレンジできる環境にいられることは非常に幸運なことで、語学力や専門知識など自分に足りないスキルを再認識、新発見することでモチベーションアップにつながっています。残りの期間も精一杯多くのことを勉強して、さらにスキルアップしていきたいです。



オフィスで私がいつも使っているデスクです。左手には小型武器関連の書類が積み上がっています。

以上。

文責：山田 悠紀子

2011年9月24日